

愛知大学国際中国学研究センター
2008年度 国際シンポジウム

中国をめぐる開発と 和諧社会

Aichi University International Center for Chinese Studies
International Symposium 2008

Development and Harmonious Society in China

プログラム・資料集

12月5日(金) 13:00~17:15
[12:30 開場]

12月6日(土) 9:30~18:15
[9:00 開場]

12月7日(日) 10:00~15:35
[9:30 開場]

【日本語・中国語 同時通訳あり】

主催 愛知大学国際中国学研究センター

開催趣旨

愛知大学国際中国学研究センター
所長 高橋 五郎

開発と和諧

中国の「開発」政策の骨子は、江沢民時代の1999年に始まった12省区を対象とする「西部大開発」の中に見ることができる。「西部大開発」は1)東西地域の著しい開発格差の是正、2)少数民族の社会的・政治的安定化、3)環境保護、4)WTO加盟による農業・農民等への影響の緩和、などを目的とするものであった。その具体的手段として、西部地域における道路・鉄道・内陸空港建設、都市化の促進、西気東輸事業、西電東送事業、南水北調事業などのインフラ建設、退耕還林・還草事業、水利・節水事業など環境保護対策、その他産業構造調整・科学技術・教育の発展などの取組みが行われてきた。社会的課題をハード面のインフラ整備を通じて達成しようとする取組みであるといえる。

このような開発モデルは中国の他の地域の経済開発にも当てはまるものであるが、開発による国家建設路線に加え、和諧社会建設という考え方が登場した。それは2006年10月の第16次6中全会「中共中央社会主義和諧社会建設に関する重大問題決定」である。和諧社会建設は胡錦濤政権の中心となる政治的課題である。

「重大問題決定」では、中国は全体的にはすでに和諧的であるが、なお和諧に少なからぬ影響を及ぼす矛盾や問題、たとえば都市と農村や地域間における経済社会発展の不均衡、人口と資源環境問題の拡大、政治腐敗などが課題として残されているとされた。そのうえで社会の和諧は中国社会主義の本質的属性であり、国家を強化し、民族振興を図り、人民の幸福を保証する手段として重要であるとされた。そしてその達成目標を2020年におき、以下の原則を挙げた。1)人民の利益を優先、2)科学の発展を堅持、3)改革開放を堅持、4)民主政治を堅持、5)安定した改革的発展、6)共産党指導の下で社会建設を行うというものである。和諧社会を建設しようとする背景には、人間中心社会の建設、中国社会の国際スタンダード化と国際競争の激化、イデオロギー主導型国家建設方式の終焉などがあると思われる。

方法的視点

開発と和諧を総体的に考察するには、多面的な方法による考察結果を総合する観点が重要である。多面的な方法とは、まず中国の西部大開発に典型的な開発と和諧社会建設を相関的にとらえ、その一体性や分離性（あるいは矛盾）を意識しつつ、これを研究課題として総合的な考察を加え、その特殊性と普遍性を把握する、というものである。

開発については市場と政府一体的な中国的成長モデルの検証抜きには論じられない。また、和諧の考察には、国内的調和と国際的調和という二重の考察の視点がありうる。この場合、アジアNIEsの開発・社会安定化モデルとの比較や相対化、同地域における農村開発モデル等との比較を視点にもつことも重要である。

これらの関係について、現代中国学方法の一環として本研究センターが構築してきた共同態度論にもとづく問題発見・解決型の地域研究法すなわち平和のための地域研究法にもとづく他、多様かつ自由なあらゆる研究方法を歓迎したい。たとえば今回のシンポジウムのセッションである経済、政治、環境、文化の各研究領域と関連する開発経済学、開発政治学、開発環境学、開発人類学等の諸学問の方法も参考になるはずである。

本シンポジウムでは、開発の主眼が経済開発におかれてきたことをも踏まえ、まず経済セッションの議論を先行させ、政治、環境、文化というセッション（研究領域）から総体的な考察を加え、和諧社会の実現可能性と課題等について学術的討論を展開したい。

シンポジウムの目標

これらの方法的視点のもとで、本シンポジウムを通じ、我々は以下のような目標を共有したい。中国がこれまで進めてきた開発の特殊性と普遍性、和諧の位置づけと背景・効果・矛盾、和諧社会の実現可能性と国際的影響について考察することである。キーワードは開発と人間である。そしてその調和が現代中国の枠組みにおいて、果たして可能かどうか、あるいはどのようにすれば可能なのか。議論はこの点に集約されよう。

Director, Goro Takahashi

The International Center for Chinese Studies (ICCS)
Aichi University

The purpose of development policy in China is made clear in the Western Development Strategy covering 12 regions which started in 1999 during the Jiang Zemin era. The aims of the strategy are as follows: 1) correction of the wide disparities in the development between the West and the East; 2) social and political stabilization of the ethnic minorities; 3) environmental protection; 4) alleviation of the impacts on agriculture and farmers resulting from WTO accession. For the purpose of attaining the above-mentioned aims, following activities were implemented: the construction of roads, railways and domestic airports in the West; the promotion of urbanization; infrastructure construction such as building gas pipelines from the West to the East, building power lines to send electricity from the West to the East and building the pipes to transfer water from the South to the North; environmental protection measures such as the returning of cultivated land to forest, the restoration of grassland, irrigation and drainage; industrial structural adjustments; the development of scientific technology and education. These show how the Chinese government intends to tackle social issues through infrastructure development.

This development model applies to economic development of all regions in China. In recent years, in addition to the nation building strategy, a new philosophy of harmonious society has emerged. The construction of a harmonious society under socialism was stated by the Central Communist Party at the sixth Plenum of the 16th CCPCC in October, 2006. The construction of a harmonious society is at the center of the political theme of Hu Jintao regime.

It was pointed out that China was already harmonious overall, but that there still remained conflicts and problems affecting this harmony significantly, imbalances of social and economic development between the countryside and the towns and among regions, expansion of population and environment problems, and also political corruption. It was asserted that the harmony of Society was an essential part of Chinese socialism and is important as a means to strengthen the nation, to unite various peoples and to guarantee the happiness of all. They made 2020 the target year and have enumerated the following principles: 1) the priority placed on people's welfare; 2) maintenance of scientific development; 3) maintenance of the open door policy; 4) maintenance of democracy; 5) development of stable reform; and 6) social construction under the guidance of the Communist Party. In the background behind the construction of a harmonious society, it can be pointed out that there is the construction of a human-centered society. Also there is the international standardization of Chinese society and the intensification of international competitiveness, and the end of the nation-building strategy by ideological initiative.

Methodological Perspective of this Symposium

We suggest a multi-dimensional method to consider development and the creation of a harmonious society. The multi-dimensional method is designed to grasp the correlation between a typical development such as that of the Western Development Strategy and the establishment of a harmonious society, and to be aware of the unity of the two and also separateness (or conflicts) between the two, to analyze them comprehensively as a research theme, and to comprehend their peculiarity (China only) and universality (other developing countries).

Development can not be discussed without an evaluation of the Chinese growth model with its integration of market and government. When we consider the harmonious society, we must consider both domestic harmony and international harmony. We want to make comparative studies between the Chinese model and the development and social stabilization model of the newly industrializing countries (NIEs).

In the above discussions, 'cobehaviorism' which is the new methodology of modern Chinese studies will be further considered and applied. We would welcome free exchanges of the opinions on these subjects. For example, we can list other methods such as development economics, development politics, development environment and development anthropology which are all related to the sessions of this symposium (economics, politics, environment and culture).

Since the main focus of development has been put on economic development, economics will be discussed first in the symposium, followed by environment, politics and culture. We would like to develop academic discussions about the possibility of realizing a harmonious society, and the problems to be encountered while doing this throughout the symposium.

Objective of the Symposium

Based on the above methodological perspectives, we would like to share the following ideas throughout the symposium. We want to consider the peculiarity and universality of development, the position, background, effects and conflicts within the harmonious society in China, the possibility of realizing a harmonious society and the international consequences. The key words are development and human beings. Is harmony possible or not in the framework of contemporary China? And if possible, how? Discussions should be centered on these questions.

経済成長と和諧社会の展望

中国の開発問題は、経済社会の開発と人間社会の開発という両面を含んでいる。いわば、メダルの表と裏の関係として捉えることができる。「和諧」とは、この両面に存在するアンバランスを調整し、均衡を図る試みを意味するものと理解できる。持続的発展という意味も込められていると思われるが、この点に我々が関心をもつのは、中国社会の安定が中国自身のみならず、いまや日本を始めとするアジア各国にも大きな関係があるからにほかならない。メインテーマを「中国をめぐる・・・」としたのは、ゆえなしとしない。

胡錦濤政権は和諧社会の実現をあらゆるスローガンに据えているが、経済社会の開発が一段落し、それと同時に、社会の隅々に、不安定さが制御の限界を超えて顕在化してきたという危機感がある。とりわけ、解決の糸口がみえない三農問題、資源確保問題、環境問題、過剰資本の使い方などについての対応をどうするのか、といった構造的な課題が山積している。今後、アジア諸国は中国经济を核として展開する可能性が高いが、いまやこの地域での経済社会と人間社会の均衡ある展開を図ろうとすれば、中国经济の動向とりわけ和諧社会の実現がどの程度可能なのか、という点について注目せざるを得ない。

アジアとりわけ、東南アジア諸国は経済発展の限界を実感しつつある。それは、従来この地域の経済的リーダーだった日本経済の斜陽化にとって代わって登場しつつある中国经济が、完全に信頼するに足らない不安定さを内包していることによるとと思われる。

これらの問題意識を含め、経済セッションでは多様な観点からの考察を深めたい。

開発に伴う環境変化と和諧社会

改革・開放後の中国は沿岸一帯の経済発展が先行しつつ、その間に生じた内陸部の落差をカバーすべく西部開発をすすめてきた。これまでの経済発展は経済市場主義的にすすめられたため、それが派生する環境問題が多面的に発現し、環境問題がスムーズな経済発展を妨げるほどの状況も生じている。

そのような状況をふまえ、中国政府も環境問題への対応を主要政策の一つに取り上げざるをえなくなり、国内的には「和諧社会」のスローガンをかけ、国民への啓蒙活動も行っているとともに、生態系の保全への投資も具体化するようになった。しかし、この「和諧社会」の具体的方法についてはあまり明らかではなく、その検討も必要であろう。

本来、経済活動と環境問題はそのメカニズムも明らかにしなければ環境保全への具体的方向のあり方も打ち出せないし、そのあり方が経済活動にどのようにかわるかも明らかにしなければ、循環系の地域システムも明らかにできない。

現実には、現在の中国では経済発展が先行した沿岸部一帯と、現在、多くの政府投資を得てすすめられている内陸部の西部開発の対象地域では、経済開発レベル、生態系の空間的まとまりの単位も異なり、開発と環境とのかわりにも違いがあるようにみえる。それらもふくめ開発と環境保全の実態をふまえつつ、両者の関係のあり方を検討できたらと願っている。

和諧社会と開発政治

1999年国務院は「西部大開発」に関する大綱を発表、2000年以後西部地域開発が本格化した。しかしその後、05年国務院発展研究センターは第11期五カ年計画期間中、全国を東部、中部、西部、東北の四大地域に分け、その下に八大総合経済区を設ける新戦略を発表した。この新戦略は、改革開放が中国社会に高度成長をもたらしながらも、環境破壊、資源の枯渇、福祉医療の不備、地域・産業間格差などの社会諸矛盾を惹起した点と関係する。02年の16回党大会以来、暦年の党中央委員会総会が「和諧社会」の実現の課題を提起したのは、そうした社会諸矛盾の解決を意図したものであった。

ところで過去、1961年9月の米ケネディ大統領の演説「開発の十年」以来、今日まで続いている先進諸国の対途上国開発援助（ODA）は、成長主義的な開発政策を採用してきたため、南北問題や途上国社会の貧富の格差拡大等多くの矛盾を惹起した。このため60年代から80年代にかけG・ミュルダールの「低開発経済理論」、サミール・アミンやA・G・フランクの「従属理論」、1972年のローマクラブ・レポート「成長の限界」など一連の「開発主義」に

対する批判を呼び起こした。ところがこうした中で、70年代後半から80年代にかけNIES（新興工業化経済）やASEAN諸国が経済的に台頭、発展途上諸国の高度成長が実現する状況が生まれたため、一時、「開発主義」の矛盾が解消され得たとする議論が登場。これに加え80年代から欧米日本など先進諸国に「自由市場至上主義」的な政策が支配的となり、「開発主義」批判が後退することにもなった。

しかし80年代末以後、地球温暖化による環境危機が自覚されるに至り、92年に「環境と開発に関する国連会議」（UNCED）がリオデジャネイロで開催され、「開発主義」への反省が再び国際社会の関心を集めるに至った。当初、中国は「開発主義」が重大な社会矛盾を惹起することを十分自覚せず、この問題が真剣な政策課題となったのは90年代末からである。21世紀に入り「開発主義」がもたらす社会矛盾は、農民の抵抗運動や都市住民の抗議行動の急増となって現れている。さらに「開発主義」は政権内部に深刻な腐敗をもたらす結果ともなっている。本セッションで使用する「開発政治」とは、そうした「開発主義」をめぐる政治総体を示す概念である。本セッションはこの「開発政治」をめぐる諸政治課題を解決するために中国政府が主張する「和諧社会」論がどこまで有効性を発揮しうるかを検討する。

文化セッション

社会・文化の視点から見た和諧社会の構築

改革開放以来の30年間、目覚ましい経済高度成長によって急激に豊かな社会へと変貌しつつある現代中国。しかしその一方で、都市と農村、沿岸部と奥地の地域間格差、政治改革の不透明、役人の腐敗と不信、更に人口問題、三農問題や環境及び資源・エネルギー問題などといった、社会の矛盾が露呈され、様々な問題が噴出している。格差の是正や社会の安定化及び多民族間関係の維持を図るために、西部大開発や都市化推進などの国家プロジェクトが次々と実施されながらも、依然として、深刻な諸問題が未解決のまま蓄積されている。これらの問題と緊張関係を緩和させるため、「和諧社会建設」の理念が打ち出され、それはただのスローガンに止まらず、内政・外交にわたって本格的な施策も次々と打ち出されてきた。

また、経済体制改革の成功と政治体制改革の行き詰りの間で、近年の文化体制改革がその挟間で大いに展開され、注目されている。経済や文化のグローバル化の波が及ぶ中で、中国文化の様々な動きが見受けられ、それが活発化しているのが当今の趨勢である。現代中国では、国際競争にも参加できるように、文化は「ソフトパワー」として、発展の「資源」として、国家アイデンティティの拠り所として、そして、「和諧社会建設」の一環として、以前より遥かに重視され、見直されつつある。当面、全国をあげて繰り広げられている無形文化財の保護運動は、政府の文化政策とも連動し、社会生活の民主化傾向にも拍車をかけている。これらの問題や課題はすべて、「和諧社会」すなわち人間を中心とする社会の形成が実現可能かどうかに関わっている。

本セッションは、社会・文化の視点から見た「和諧社会」とは何かを考え、中国思想史における「和」の系譜を遡りながら、現実社会の構造転換、社会変容及び国民の生活スタイルの変化といった文化の諸問題を、多面的な方法で考察することを目的とする。

基調講演

演題： 転換期における中国の改革－企業・市場・国家－

講師： ジャック・ホウ氏

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校経済学部教授、前中国留美経済学会長

■プロフィール

1989年、イェール大学大学院博士課程修了、Ph.D.取得。1989年、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校講師、1993年同准教授を経て1998年より現職。カリフォルニア大学ロサンゼルス校客員教授を兼務。主な研究分野は労働経済学、国際経済学、中国経済論。

■主な著書・論文

"Evolution of Economic Institutions and China's Economic Reform" in The Impact of Globalization on Basic Social Institutions, papers and proceedings from the Fifth International Conference of the Global Awareness Society, May 1997
"Evolution of Economic Institutions and China's Economic Reform," The Social Science Journal, 39(2): 363-379, 2002. Joint with C.C. Hou (Soochow University)
"Rural Reform and the Welfare Impact on Urban Workers: An Analytical Approach", in Aimin Chen, Gordon G. Liu, and Kevin H. Zhang (eds.), Urbanization and Social Welfare in China (England: Ashgate), pp. 107-137, 2004.
"Evolution of Economic Development: Entrepreneurs, Market, and the State," in Shuanglin Lin and Shunfeng Song (eds.), The Revival of Private Enterprises in China (England: Ashgate), pp. 89-105, 2007



ECONOMIC SESSION

Economic Growth and the Prospect of the Harmonious Society

The development-related issues in China include both developmental aspects, namely the development of the economic society and of the human society. These aspects are, in a manner of speaking, in the same relationship as that of the head and tail of a coin. "Harmonious" can be understood as indicating an attempt to balance by adjusting the unbalance existing in these aspects, and possibly includes the implication of sustainable development. The reason for our interest in this point is because the stability of the Chinese society not only affects China itself, but now also has an impact on other Asian nations including Japan. The main theme that states "... involving China" owes to this premise.

The Hu Jintao regime places the realization of a Harmonious Society in all sorts of slogans, and behind such slogans is a sense of crisis --- that instability has surfaced in all corners of the society beyond the ability to control, during the progress of the initial development of the economic society. In particular, structural hardships such as the "Three Rural Issues" with no clues to a breakthrough, issues concerning the supply of resources, environmental problems, and use of surplus capital are mounting. Considering the probability of Asian nations developing around the Chinese economy, the trend of Chinese economy, especially the feasibility of the Harmonious Society will be the point of concern in order to realize a balanced sustainment of economic and human societies in the region.

Asia, and southeastern Asian nations in particular, is realizing the end coming to its economic growth. This realization may be derived from the instability of the Chinese economy, which evolved as a replacement for the now-shady Japanese economy, the conventional economic leader of the region.

The economic section seeks to further observe the regional economy from varying perspectives, including such awareness of issues.

ENVIRONMENT SESSION

Development-attributed Environmental Change and Harmonious Society

China, after the economic reform and opening-up, forewent with the economic development of the coastal areas and is proceeding with the Great Western Development Strategy to cover the drop in the internal areas. Previous economic developments were focused on the economic arena, causing a multitude of environmental problems, which, in some cases, are of such degree and content that it hinders smooth implementation of economic development.

Given such conditions, the Chinese government is forced to take action on environmental issues as one of the primary political measures. Domestically, the government employs the slogan of "Harmonious Society" in the awareness campaign targeting its citizens, and as a result, materialized actual investing in the conservation of the eco-system. Nevertheless, specific means of actualizing the "Harmonious Society" are not fully clarified and thus require further consideration.

Fundamentally, without the clarification of the mechanism, environmental problems cannot see their specific direction of resolution. Furthermore, if present, how such a direction is involved with economic activities is unclear, and then a sustainable regional system cannot be clarified.

In the reality of present-day China, the level of economic development and space for the eco-system are different when comparing the coastal regions, where economic development has already taken place, and the target areas of the Development of the Western region in inland China where development is currently underway with ample government funds. This evokes the view of there also being a difference between the relationship of development and environment. The session hopes to review the relationship of development and environment, with consideration to the above and the actual state of development and environmental conservation.

POLITICS SESSION

Harmonious Society and Development Politics

In 1999, the State Council of the People's Republic of China announced the fundamental principles of the "The Great Western Development Strategy" and since 2000 the development of the western region has been implemented full-scale. However, in 2005, the Development Research Center of the State Council divided the nation into 4 major regions, i.e. Eastern, Central, Western, and Northeastern, during the 11th term of the 5-Year Plan and announced the new strategy to institute Eight Comprehensive Economic Zones under the 4 regions. This new strategy relates to the point that the reform and opening-up policies have provoked social contradictions such as environmental destruction, depletion of resources, insufficient medical welfare, and inter-industrial disparities, while bringing high economic growth to the Chinese society. The proposals of the criteria for the realization of the "Harmonious Society" raised by the line of the Central Committee of the State Council since the 16th Conference in 2002 were intended to resolve such social contradictions.

On another note, the official development aid (ODA) of the developed countries that continues to today since the "Development Decade" speech by U.S. President Kennedy in September 1961 has caused many contradictions including the North-South problem and an expansion of wealth disparity in underdeveloped nations, due to the adoption of growth-oriented development policies. Consequently, this has led to criticisms against the series of

'Developmentalism' from the 1960s through to the 1980s, such as the "Economic Theory and Under-developed Regions" by Karl Gunnar Myrdal and the "Dependency theory" by Samir Amin and Andre Gunder Frank. Under these circumstances, however, there arose another situation where developing nations experienced a high economic growth, given the economic rise of the NIES (Newly Industrializing Economies) and ASEAN nations from the late 1970s to the 1980s, which lead to the temporary argument that the contradictions of the "Developmentalism" are resolved. In addition to this, free-market supremacist policies became dominant in the developed nations of Europe, the U.S. and Japan from the 1980s, which set back the criticism against "Developmentalism."

However, after the late 1980s, environmental crises arising from global warming came to be acknowledged and in 1992 the United Nations Conference on Environment and Development (UNCED) was held in Rio de Janeiro, in which the remorse over "Developmentalism" regained the international spotlight. In the initial phase, China had not sufficiently acknowledged that "Developmentalism" provokes critical social contradiction, and the issue became a serious political challenge from late 1990s. In the 21st century, the social contradictions deriving from "Developmentalism" have become apparent in the form of increased resistance from farmers and protests from city residents. In addition, "Developmentalism" also resulted in severe corruption in the regime. The "development politics" used in this political research seminar is a concept representing the political integrity regarding the "Developmentalism." This seminar reviews the effectiveness of the "Harmonious Society" theory the Chinese government advocates to resolve the political issues involving the "development politics."

CULTURE SESSION

Establishment of the Harmonious Society from the Socio-cultural Perspective

Thirty years since the economic reform and opening-up lead by Deng Xiaoping, modern China is rapidly transforming into a rich society through dramatically high economic growth. However, on the other hand, social contradictions such as regional disparities between cities and rural villages and coastal regions and hinterlands, lack of transparency in political reforms, corruption and distrust in bureaucracy, population problems, the Three Rural Issues Problems, and environmental, resource and energy issues, have been revealed and erupted into a constellation of problems. In order to alleviate of the disparities, stabilize the society and maintain the inter-ethnic relations, national projects such as the Great Western Development Strategy and the Urbanization Promotion are implemented one after another, but serious issues remain unresolved and accumulate. Thus the idea of the "construction of the Harmonious Society" was set forth to relieve the tension of these problems. The idea was not a mere slogan but it was actually carried out in a continuous stream of full-fledged measures, both in domestic and international affairs.

On the other hand, in the midst of the successful reform of the economic framework and the standstill of reforms in the political structure, recent reforms in the cultural system are actively being implemented and attracting attention. Despite the sweeping waves of economic and cultural globalization, the Chinese culture is undergoing a renaissance and it is currently trending upwards. In modern China, culture is treasured far more than before and with a renewed significance, as a "resource" for development, as a foothold for national identity, as a part of the "construction of the Harmonious Society", and as a "soft power" that enables participation in international competition. Today, the nationwide conservation movement of intangible cultural assets is carried out in sync with the government's cultural policies and accelerating the trend of democratization in social life. These issues and challenges are all deeply involved with the feasibility of forming the "Harmonious Society", i.e. a human-centered society.

This session considers what the "Harmonious Society" is from a socio-cultural perspective and serves the purpose of observing cultural issues of structural turnaround of a real-life society, social changes, and changes in citizen lifestyle, by going back through the genealogy of "harmony" in the history of Chinese thoughts.

Keynote Speech

Title of the Speech:

Reforms in Transitional China: Entrepreneurs, Markets, and the State

Lecturer: **Prof. Jack W. Hou**

*Professor of Dept. of Economics California State University - Long Beach
Former President of The Chinese Economists Society*

■ Profile

Prof. Jack W. Hou obtained his Ph.D. from Yale University in 1989. He joined California State University, Long Beach as an assistant professor in 1989, became an associate professor there in 1993. Professor of California State University - Long Beach since 1998. He also joined UCLA, Los Angeles as a visiting associate professor (1999-). His main research fields are Labor Economics, International Economics, and Economics of China.

■ Main publication

"Evolution of Economic Institutions and China's Economic Reform" in The Impact of Globalization on Basic Social Institutions, papers and proceedings from the Fifth International Conference of the Global Awareness Society, May 1997

"Evolution of Economic Institutions and China's Economic Reform," The Social Science Journal, 39(2): 363-379, 2002. Joint with C.C. Hou (Soochow University)

"Rural Reform and the Welfare Impact on Urban Workers: An Analytical Approach", in Aimin Chen, Gordon G. Liu, and Kevin H. Zhang (eds.), Urbanization and Social Welfare in China (England: Ashgate), pp. 10773-137, 2004,

"Evolution of Economic Development: Entrepreneurs, Market, and the State," in Shuanglin Lin and Shunfeng Song (eds.), The Revival of Private Enterprises in China (England: Ashgate), pp. 89-105, 2007

12月5日(金) 13:00~17:15【開場12:30】

■ オープニングセッション

- 13:00-13:05 開会挨拶 佐藤元彦(愛知大学・学長)
13:05-13:30 趣旨説明 高橋五郎(愛知大学国際中国学研究センター・所長)

■ 基調講演

- 13:30-15:30 基調講演
講演者：ジャック ホウ氏(カリフォルニア州立大学ロングビーチ校)
演題：転換期における中国の改革—企業・市場・国家—

..... * 15:30-15:45 コーヒー・ブレイク *

■ 総合セッション

セッションテーマ **中国をめぐる開発と和諧社会—和諧は可能か—**

- 15:45-17:15 パネルディスカッション
【座長】 高橋五郎
【パネリスト】 各セッションから2名

12月6日(土) 9:30~18:15【開場9:00】

■ 経済セッション

セッションテーマ **経済成長と和諧社会の展望**

9:30-12:00 報告・ディスカッション

- 【座長】 高橋五郎
【報告者】 吳曉波(浙江大学)

ルー デイン(フレーザーバレー大学)

嚴善平(桃山学院大学)

佐藤元彦

高橋五郎

田中英式(愛知大学)

山本一巳(愛知大学)

【コメント】 川井伸一(愛知大学)

李春利(愛知大学)

【討論者】 ジャック ホウ

セカンダリーイノベーション:

中国企業のイノベーション能力創出と国内外技術の融合

調和ある地域開発: 挑戦と選択

新しい局面を迎えた中国の「三農問題」

東アジアの『開発の経験』と中国

経済的協同社会と和諧—競争と公正の両立のために—

中国家電メーカーの成長: 韓国・台湾企業との比較から

アジア諸国の経済実績と持続可能な発展

..... * 12:00-13:00 昼食休憩 *

■ 環境セッション

セッションテーマ **開発に伴う環境変化と和諧社会**

13:00-15:30 報告・ディスカッション

【座長】 藤田佳久(愛知大学)

【報告者】 宋献方(中国科学院地理科学与資源研究所) 和諧社会と環境保護

孫発平(青海省社会科学院)

青海省における生態環境の総合的整備とその成果

朱安新(南京大学)

「脱単位時代」における都市社区をめぐる社会学的研究の展開

一ノ瀬俊明(国立環境研究所)

都市と農村の調和した循環システム: 未来都市の概念

【コメント】 宮沢哲男(愛知大学)

藤田佳久

..... * 15:30-15:45 コーヒー・ブレイク *

■ 政治セッション

セッションテーマ

和諧社会と開発政治

15:45-18:15 報告・ディスカッション

【座長】 加々美光行(愛知大学)

【報告者】 金観濤(政治大学)

劉青峰(香港中文大学名誉研究員)

許紀霖(華東師範大学)

張玉林(南京大学)

毛里和子(早稲田大学)

加々美光行

【コメント】 臧志軍(復旦大学)

張 琢(愛知大学)

「和諧」と「現代性」ーポランニー・パラダイムの再思考

中国における和諧概念の歴史的变化:

「和諧」と「協和」の歴史的位置づけ

現代中国の精神危機と宗教の再興

中国の環境戦争と農村社会ー山西省を中心に

当代中国政治の分析ーパラダイム転換のために

和諧社会と開発政治

12月7日(日) 10:00~15:35【開場9:30】

■ 文化セッション

セッションテーマ

社会・文化の視点から見た和諧社会の構築

10:00-12:30 報告・ディスカッション

【座長】 周 星(愛知大学)

【報告者】 王処輝(南開大学)

張海洋(中央民族大学)

方李莉(中国芸術研究院)

山下晋司(東京大学)

上田信(立教大学)

園田茂人(早稲田大学)

【コメント】 馬場毅(愛知大学)

高明潔(愛知大学)

中国社会の価値システムにおける「一主多元」の特性について

少数民族の発展と中国社会の和諧

無形文化遺産から人文資源へ

ー中国西部人文資源と無形文化遺産の研究

観光開発と世界遺産ー中国雲南省麗江を訪ねて

模索する雲南チベット族

誰が和諧社会を望んでいるのか?:天津市調査からの知見

..... * 12:30-13:30 昼食休憩 *

■ ICCS研究員報告

13:30-14:15 報告

【座長】 李春利

【報告者】 秋山知宏(愛知大学)

宇都宮浩一(愛知大学)

李 佳(愛知大学)

中国乾燥地域における人間活動が水循環に及ぼす影響

中国個人所得税の所得調整機能とその問題点について

中国における経済発展及び水利用

■ 総括セッション

セッションテーマ

中国をめぐる開発と和諧社会ー課題と展望ー

14:20-15:30 自由討論

【座長】 高橋五郎

■ クロージングセレモニー

15:30-15:35 閉会挨拶

December 5 (Fri) 13:00~17:15 [Doors open at 12:30]

■ OPENING SESSION

13:00–13:05 WELCOME SATO Motohiko(President, Aichi University)
13:05–13:30 OPENING SPEECH TAKAHASHI GORO(Director, ICCS, Aichi University)

■ KEYNOTE SPEECH

13:30–15:30 KEYNOTE SPEECH
Invited Speaker: Jack W. HOU(California State University, Long Beach)
Title : Reforms in Transitional China: Entrepreneurs, Markets, and the State

..... * 15:30–15:45 Coffee Break *

■ GENERAL SESSION

(Session Theme) **Development and the Possibility of Building a Harmonious Society in China**

15:45–17:15 Panel Discussion
【Chair】 TAKAHASHI Goro
【Panelist】 Total 8 persons, 2 persons from each sessions

December 6 (Sat) 9:30~18:15 [Doors open at 9:00]

■ ECONOMICS SESSION

(Session Theme) **Economic Growth and the Prospect of the Harmonious Society**

9:30–12:00 Speech & Discussion
【Chair】 TAKAHASHI Goro
【Speakers】 WU Xiaobo(Zhejiang University) Secondary Innovation: Innovation Capability Building of Chinese Enterprises and Technological Innovation
LU Ding(University of Fraser Valley) Harmonizing Regional Development: Challenges and Options
YAN ShanPing(Momoyama Gakuin University) China's "San Nong Issue" Confronting a New Phase
SATO Motohiko Development Experiences of East Asian Economies and China
TAKAHASHI Goro Economically Cooperative Society and Harmonization: For the Coexistence of Competition and Equity
TANAKA Hidenori(Aichi University) Development of Chinese Home Appliance Enterprises: A Comparative Study with Korean and Taiwan Enterprises
YAMAMOTO Kazumi(Aichi University) Economic Performance and Sustainable Development in Asia
【Commentators】 KAWAI Shinichi(Aichi University)
LEE Chunli(Aichi University)
【Discussant】 Jack W. HOU

..... * 12:00–13:00 Lunch Break *

■ ENVIRONMENT SESSION

(Session Theme) **Development-attributed Environmental Change and Harmonious Society**

13:00–15:30 Speech & Discussion
【Chair】 FUJITA Yoshihisa (Aichi University)
【Speakers】 SONG Xianfang (Institute of Geographic Sciences & Natural Resources Research, CAS) Harmonious Society and Environmental Protection
SUN Faping(Qinghai Province Academy of Social Sciences) The Comprehensive Management of Ecological Environment and its Effects in Qinhai Province
ZHU Anxin(Nanjing University) Development of Urban Communities in Post Danwei-Era: A Sociological Approach
ICHINOSE Toshiaki(National Institute for Environmental Studies) Cyclical System Incorporating Urban and Rural Areas: Concept of Cities in the Future
【Commentators】 MIYAZAWA Tetsuo(Aichi University)
FUJITA Yoshihisa

..... * 15:30–15:45 Coffee Break *

■ POLITICS SESSION

(Session Theme)

Harmonious Society and Development Politics

15:45 – 18:15 Speech & Discussion

[Chair] KAGAMI Mitsuyuki(Aichi University)

[Speakers] JIN Guantao(National Chengchi University) Harmonization and Modernity: Rethinking Polanyian Paradigm
LIU Qingfeng(Honorary Research Fellow of The Chinese University of Hong Kong)

Historical Changes in the Concept of "Hexie":
Usage of "Hexie" and "Xiehe" in Chinese History
Spiritual Crisis and Renaissance of Religions in
Contemporary China

XU Jilin(East China Normal University)

ZHANG Yulin(Nanjing University)

MORI Kazuka(Waseda University)

Environmental Conflicts and Agricultural Society in China:
Evidence from Shanxi Province

Analysis of Contemporary Chinese Politics:
Aiming for the Shift of Paradigm

[Commentators]

KAGAMI Mitsuyuki

ZANG Zhijun(Fudan University)

ZHANG Zhuo(Aichi University)

Harmonious Society and Development Politics

December 7 (Sun) 10:00–15:35 [Doors open at 9:30]

■ CULTURE SESSION

(Session Theme)

**Establishment of the Harmonious Society from the
Socio-cultural Perspective**

10:00 – 12:30 Speech & Discussion

[Chair] ZHOU Xing(Aichi University)

[Speakers] WANG Chuhui(Nankai University) A Study on the One Authority-Pluralism Feature of
Chinese Social Value System

ZHANG Haiyang(The Central University for Nationalities)

Development of Ethnic Minorities and the Harmonization
of Chinese Society

FANG Lili(Chinese National Academy of Arts)

From Intangible Cultural Heritage to Human Resources:
A Research on Human Resources and Intangible
Cultural Heritage in Western China

YAMASHITA Shinji(The University of Tokyo)

Tourism Development and the World Heritage:
Evidence from Lijiang, Yunnan Province, China

UEDA Makoto(Rikkyo University)

Tibetans in Yunan

SONODA Shigeto(Waseda University)

Who look forward to a harmonious society?:

Evidence from a Survey in Tianjin

[Commentators]

BABA Takeshi(Aichi University)

GAO Mingjie(Aichi University)

..... * 12:30 – 13:30 Lunch Break *

■ ICCS Postdoctoral Fellow Presentations

13:30 – 14:15 Speech

[Chair] LEE Chunli

[Speakers] AKIYAMA Tomohiro(Aichi University) Impacts of human activities on hydrological cycle in arid
region of Northwestern China

UTSUNOMIYA Koichi(Aichi University)

The Effects of Individual Income Tax on Chinese Income
Inequality

LI Jia(Aichi University)

Economic Development and Water Utilization in China:
A Tale of Two Cities

■ GENERAL SESSION

(Session Theme)

**Development and Harmonious Society in China:
Issues and Prospects**

14:20 – 15:30 FREE DISCUSSION

[Chair] TAKAHASHI Goro(Aichi University)

■ CLOSING CEREMONY

15:30 – 15:35 Closing Remarks